

41 明治11年9月7日 菊池長閑

第七号九月七日

六月十六日付第七号七月四日付第八号共八月十六日達し封紙十枚達したり横文何と記たるや此許にて未読無之外国人も来居る趣是ニ手寄を求て聞へく然し序ニ為知呉候様致度候

田中も確定之返事無之候へ共多分今一ヶ年在留可成考之趣先以夫なれハ大ニ安心也早速御祖母様へ申上たる処又一ヶ年とハ待遠なれとも先以目当もありて楽ミもありと御歎ニ候英公子も不遠御帰朝之趣上々様方御歎ニ可有之早く来年ニいたし待受いたし度ものニ候

郵便切手沢山ニ達し前後合て十四ヶ国と成り心付之如く国分して張付へし西洋品珍ら敷物品幾位も用意之輩可有之候得共郵便切手など集むる者恐くハ有間敷是を一帳ニ拵来年当県之博覧会エ可出と心懸居候

当年もメエン州ニ避暑之由書面之如くにてハ大ニ檢約(たて)ニなるへし

当年七月以来雨降続日本諸国洪水之義は新聞上ニ而知るへし当表七月以来甚不順候にて八月に入しか同月七日ハ快晴と成爰ニ至テ始テ暑氣を覚え田表追々出穂ニ至る初メ早稲之頃ハ兎ニ角

大なる障もなく此暑氣ニ而中稲出穂ニ成盛り花懸る頃強風にて花を落し畑ハ粟稗実を落し其後ハ北風或ハ辰巳之風にて涼敷家内ニテハ袴襦半を着し九月一日二百日なるか(抹消)「早」晩稻ハ漸穂含ミ頻ニ暑を願ふ処同く北風勝にて殆ノ旧八月下旬之如し如何可有と氣遣ふ処昨日ハ風止ミ相応之暑ニ成り此通今十日も続カハ兎ニ角直り作ニ可成なれとも処水害もあれハ当管内にても平均昨年之収利ハ減へし持地ニハ下飯岡ニ而五百刈程水損あり様子ヲ聞くニ多分無収利ニ近かるへく相場ハ于今申出なけれとも是も必難波あるへし然れハ当暮ハ余程之減収利なるへしと考居候

藤田も去月下旬帰県安心せり箱館之方辞職盛岡学校教員ニ成る積月給十二円位随分安直段ニテ当人不平ハ尤なれとも第一病身之母介抱を着目すらハ強て彼是云ふ迄ニも有間敷と存れ共実ハ其処ニ着眼薄く只々自分之修業のミ思ふものと見え以之外ニ候

武夫殿

長閑

(封筒裏)

「米国ボストン府

菊池 武夫 殿

(消印3)

(武夫注記1)(消印2)

(消印1)
(武夫注記2)

(封筒裏)

「日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番

「(消印4)(消印5) 菊池長閑平安」

(宛未封記一)

「Takeo Kikuchi

Gilbert Sitwood & co.

14 Merchant Exchange

Boston, Mass. U. S. A.」

(宛未封記2)

「Ans'd」

(消印一) (消印6) (消印4)

「陸中・岩手・九・七・盛岡」

(宛印2)

「JAPAN. YOKOHAMA, SEP 22 1878」

(宛印5)

「SANFRANCISCO. CAL. P. D. ALL OCT. 11」